



2021年9月28日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 リ プ ロ セ ル
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 横 山 周 史
(コード番号：4978)
問 合 せ 先 取 締 役 CFO 赤 野 滋 友
(TEL. 045-475-3887)

新型コロナウイルスのラムダ株及びミュー株の特定検査の追加について

当社では、現在、新型コロナウイルスのPCR検査に関して、世界保健機関（WHO）が「懸念される変異株（Variants of Concern）」に指定しているアルファ株（イギリス由来）、ベータ株（南アフリカ由来）、ガンマ株（ブラジル由来）、デルタ株（インド由来）の四つの変異株の全ての特定検査を実施しております。

この度、新たに、WHOが「注目すべき変異株（Variants of Interest）」に指定しているラムダ株（ペルー由来）とミュー株（コロンビア由来）の二つの変異株の特定検査について、追加することになりましたので、お知らせいたします。これにより、現時点でWHOが指定している「懸念される変異株」および「注目すべき変異株」の全ての変異株の特定検査を行うことができるようになります。

検査プロセスとして、まずは、最先端のPCR検査であるスマートアンプ法を用いて、陽性/陰性の判定を高精度で行い、その後、全ての陽性検体に対して、上記6種類の変異株を同時に特定するPCR検査を追加で実施いたします。

変異株の特定検査では、通常、ゲノム解析を用いることが多く、2日程度の時間を要しますが、本手法では、多くの検体（94検体）を同時に、かつ、1～2時間程度の短時間で検出できることを特長としています。

新型コロナウイルスでは、様々な変異株が発生しており、感染力や重症度、ワクチン効果に影響が及ぶ可能性があるため、今後とも、当社では、様々な変異株を迅速に特定し感染状況を正確に把握できるよう、貢献してまいります。

以上